

事業のタネシート

活動地域・団体名：吉野川流域地区 コウノトリ定着推進連絡協議会

事業名称1：NPO法人の認定化による資金システムと活動体制の強化

あらすじ

[②地域課題：ステークホルダーの拡大]という問題に困っており、[③なぜこの事業をやるのか：ビジョン実現のためには、より充実したプラットフォームと資金システムが必要なため。]、[⑥担い手：NPO法人とくしまコウノトリ基金、コウノトリの野生復帰及び地域農業や経済活性化を実施したい地域住民、大学、企業等]が[事業名：NPO法人の認定化による資金システムと活動体制の強化]を行います。これは[④地域資源：多数のコウノトリの飛来、コウノトリの営巣・繁殖、企業、地域住民、官公庁、コウノトリファン、ボランティア、都市との連絡に便利な地理条件]を使った[⑤商品・サービスの具体的な内容：協力企業等のインセンティブ、企業研修プログラム、ボランティアイベント]の検討、実施です。

この事業を行うことで地域に[⑦事業で生じる循環：より多くのヒトとカネが地域へ流れ込み、それによる環境保全活動、経済活動が活発化し、さらに地域内外へ波及していく]となり、[①ありたい未来：コウノトリの取組に多種多様な人材が関われる仕組み]につながります。

ストーリー

令和元年度にコウノトリをはじめとする希少鳥類の保護と地域農業や地域経済の活性化を目的とする「NPO法人とくしまコウノトリ基金」を「認定NPO」化する。

より強固な資金システムと活動体制を確立し、参加企業等には、地域の環境や文化に関する研修、ボランティアイベント等のプログラムを提供するほか、インセンティブの強化策を検討する。

事業の骨子		現時点で想定される課題・ボトルネック
①ありたい未来	コウノトリの取組に多種多様な人材が関われる仕組みができています。	事業を実施するための、マンパワーとノウハウが不足している。参加企業等には、地域の環境や文化に関する研修、ボランティアイベント等のプログラムを提供するほか、インセンティブの強化策を検討する必要がある。
②課題	ステークホルダーの拡大	
③なぜこの事業をやるのか (Why)	ビジョン実現のためには、より充実したプラットフォームと資金システムが必要なため。	
④地域資源	多数のコウノトリの飛来、コウノトリの営巣・繁殖、企業、地域住民、官公庁、コウノトリファン、ボランティア、都市との連絡に便利な地理条件	
⑤商品・サービスの具体的な内容 (What)	協力企業等のインセンティブ、企業研修プログラム、ボランティアイベント	
⑥担い手 (Who)	NPO法人とくしまコウノトリ基金、コウノトリの野生復帰及び地域農業や経済活性化を実施したい地域住民、大学、企業等	課題・ボトルネックを乗り越えるために力を借りたい人物・企業像
⑦事業で生じる循環	より多くのヒトとカネが地域へ流れ込み、それによる環境保全活動、経済活動が活発化し、さらに地域内外へ波及していく。	県外のCSRに興味のある企業、オーブ基金等資金集めのノウハウをもつ仕掛け人、認定NPO化のノウハウを有する個人・団体
⑧事業で生じる成果	認定NPO法人となることで、よりステークホルダーからの信頼を得ることができる。これがより多くの寄付の獲得につながり、たくさんの活動の担い手の確保、多様な人材との交流の増加が見込まれる。	

事業名称 2： 他組織との連携による環境活動と経済活動の連携強化

あらすじ

[②地域課題：地域の魅力発信]という問題に困っており、[③なぜこの事業をやるのか：コウノトリ復活にも地域経済にも不可欠な農業の持続的発展に向け、環境保全につながる活動で地域経済が活性化するための仕組みをつくるため]、[⑥担い手：吉野川流域コウノトリ・ツルの舞う生態系ネットワーク推進協議会、NPO法人とくしまコウノトリ基金、イースト徳島観光推進機構等]が[事業名：他組織との連携による環境活動と経済活動の連携強化]を行います。これは[④地域資源：地域の河川・自然、コウノトリを育む多様な生物、地域の農業、地場産業、県内企業、県内有識者・学生、地域住民、官公庁]を使った[⑤商品・サービスの具体的な内容：自然再生事業によるビオトープや公園整備、エコツアーの開発、実施]です。

この事業を行うことで地域に[⑦事業で生じる循環：地域の豊かな自然に観光資源としての価値を見だし、地域外へエコツアーとして発信することで、カネが地域へ流入する。カネの流れが環境保全の活動を活発にし、豊かになった環境はさらに経済を活発にするカネとシゼンとの循環]が起こることで、[⑧事業で生じる成果：新たなビジネス創出が地域住民が地域の新たな可能性に触れる機会となり、地域住民が自ら考え新たなビジネスを創出する呼び水となる]となり、[①ありたい未来：地域資源を活用した地域の知名度向上により経済が発展し、農業を始めとした多様な産業の担い手が増加し、地域が活性化する]につながります。

ストーリー

国交省が組織する徳島県域コウノトリ・ツルの舞う生態系ネットワーク推進協議会等と連携して、河川整備に伴う地域ぐるみでの自然再生事業やエコツアー企画に参画し、地域団体や企業との連携を深め、環境保全活動と経済活動のパワーアップを図る。

自然再生事業では、計画策定から完成後の維持管理に参画する。

エコツアーでは、インバウンドも視野に入れた企画を策定し、観光事業者等による実施を促す。

事業の骨子		現時点で想定される課題・ボトルネック
①ありたい未来	地域資源を活用した地域の知名度向上により経済が発展し、農業を始めとした多様な産業の担い手が増加し、地域が活性化する。	自然再生事業後の維持管理に要する資金、マンパワーの確保。
②課題	地域の魅力発信	地域の自然が提供できる観光資源としての価値と参加者負担のバランスの見極め、エコツアーの対象とする客層の設定、旅行者のニーズの把握等エコツアーを継続させるための情報収集とエコツアーのブラッシュアップ。
③なぜこの事業をやるのか (Why)	コウノトリ復活にも地域経済にも不可欠な農業の持続的発展に向け、環境保全につながる活動で地域経済が活性化するための仕組みをつくるため。	インバウンドの受け皿となり得る主体の育成。
④地域資源	地域の河川・自然、コウノトリを育む多様な生物、地域の農業、地場産業、県内企業、県内有識者・学生、地域住民、官公庁	
⑤商品・サービスの具体的な内容 (What)	自然再生事業によるビオトープや公園整備、エコツアーの開発、実施	
⑥担い手 (Who)	農家、J A、地場産業の企業、県内企業、県内大学、官公庁	課題・ボトルネックを乗り越えるために力を借りたい人物・企業像
⑦事業で生じる循環	コウノトリを支える地域が育んだ農業・産業を、コウノトリ認証農産物・ブランド商品として強く発信し、地域にカネを呼び込み、地域経済が活性化する。活性化された経済は、地域経済の新たな担い手を呼び込み、ヒトとカネの循環を起こす。	旅行業者、ツアープランナー、観光ホテル等 特に国内都市部や海外からの誘客に強みを持つ専門家
⑧事業で生じる成果	新たなビジネス創出が地域住民が地域の新たな可能性に触れる機会となり、地域住民が自ら考え新たなビジネスを創出する呼び水となる。	

事業名称 3 : コウノトリブランド商品の開発, 推進, 拡大

あらすじ

[②地域課題：地域の農業の活性化, 環境保全活動推進, 地域の人材育成]という問題に困っており、[③なぜこの事業をやるのか：「コウノトリ」の「のれん」を地域資源と結びつけ、地域経済を活性化することで、コウノトリをまもり実施される地域活性化を地域に定着させるため]、[⑥担い手：農家, JA, 地場産業の企業, 県内企業, 県内大学, 官公庁]が[事業名：コウノトリブランド商品の開発, 推進, 拡大]を行います。これは[④地域資源：コウノトリ, 環境に優しい農業, 地域の伝統文化・景観, 豊かな農産物, 多様な地場産業]を使った[⑤商品・サービスの具体的な内容：コウノトリおもてなしれんこん, コウノトリれんこんカレー, コウノトリを育む肥料, コウノトリロゴバッグ, ピオトープ米で作ったお酒, レンコンのピクルス等の作成, 販売促進]です。

この事業を行うことで地域に[⑦事業で生じる循環：コウノトリを支える地域が育んだ農業・産業を、コウノトリ認証農産物・ブランド商品として強く発信し、地域にカネを呼び込み、地域経済が活性化する。活性化した経済は、地域経済の新たな担い手を呼び込み、ヒトとカネの循環]が起こることで、[⑧事業で生じる成果：コウノトリブランドによる地域経済の活性化, コウノトリとともに歩む地域の人材育成]となり、[①ありたい未来：たくさんのコウノトリブランドが認定され、その付加価値から消費者に選択してもらえるブランドとなる]につながります。

ストーリー

鳴門市の「コウノトリおもてなし」認証を受け、かつ「特別栽培」の「コウノトリおもてなしれんこん」をコウノトリを支えている商品であることを強くアピールし、エシカル、SDGsの視点も取り入れながら、生産者団体や県、市を中心に販路拡大に取組み、地域農業の活性化を図る。

また、農産物の未利用資源を使った加工食品、地場産業との連携商品の開発のほか、グッズ類などにロゴマークを使用するコウノトリブランド商品の開発やPRに取組み、地域の商工業の活性化を進める。

事業の骨子		現時点で想定される課題・ボトルネック
①ありたい未来	たくさんのコウノトリブランドが認定され、その付加価値から消費者に選択してもらえるブランドとなる。	認証農産物やコウノトリブランド商品の数をもっと増やす必要あるとともに、認証やブランドによる付加価値をわかりやすい形で示していく必要がある。そのための情報発信のあり方、販売のプランニング、市場調査など、これら農産物や商品が主要なブランドとなれる売り場、客層、活用シーンの提案などのコーディネートが必要。 この事業展開に必要な要員が不足している。
②課題	地域の農業の活性化 環境保全活動推進 地域の人材育成	
③なぜこの事業をやるのか (Why)	「コウノトリ」の「のれん」を地域資源と結びつけ、地域経済を活性化することで、コウノトリをまもりともに実施される地域活性化を地域に定着させるため。	
④地域資源	コウノトリ, 環境に優しい農業, 地域の伝統文化・景観, 豊かな農産物, 多様な地場産業	
⑤商品・サービスの具体的な内容 (What)	コウノトリおもてなしれんこん, コウノトリれんこんカレー, コウノトリを育む肥料, コウノトリロゴバッグ, ピオトープ米で作ったお酒, レンコンのピクルス等の作成, 販売促進	
⑥担い手 (Who)	農家, JA, 地場産業の企業, 県内企業, 県内大学, 官公庁	
⑦事業で生じる循環	コウノトリを支える地域が育んだ農業・産業を、コウノトリ認証農産物・ブランド商品として強く発信し、地域にカネを呼び込み、地域経済が活性化する。活性化した経済は、地域経済の新たな担い手を呼び込み、ヒトとカネの循環を起こす。	
⑧事業で生じる成果	コウノトリブランドによる地域経済の活性化, コウノトリとともに歩む地域の人材育成	

課題・ボトルネックを乗り越えるために力を借りたい人物・企業像

食品関係のコンサルタント, 市場関係者, 環境保全関係ブランドで成功している地域の仕掛け人等